

① 新潟地震 昭和39年

支持力を失って転倒したアパート

浮力を受けて浮上した浄化槽

陥没したK-CATの岸壁

写真の出典

- ①全訂新版 ボーリング図を読む
- ②阪神・淡路大震災 神戸市の記録1995年

③ 護岸設計条件と考え方

護岸設計条件(その1)

13

-
-
-
-
-

→円弧スベリに対する安定性

→矢板式(矢板強度と頭部変位)

→重力式(滑動、転倒、支持力)

護岸設計条件(その2)

14

-

- 常時 安全率 1.2 以上
- ・地震時 安全率 1.0 以上

矢板強度

- ・常時 応力度 180 N/mm^2 以下 :
- ・地震時 応力度 270 N/mm^2 以下 :

滑動

- ・常時 安全率 1.2 以上
- ・地震時 安全率 1.0 以上

支持力

- ・地震時 \leq (同上)

① 地質データの整理、特性の把握

軟弱な地質であることが判明

◇ 現行の設計基準により海岸保全施設としての安定性を評価

再生計画（案）の思想

- ・ 透水性
- ・ 海と陸の連続性
- ・ 生き物への配慮
- ・ まちづくりとの連携
 など

早急な対応の展開へ

① 塩浜2丁目 : S.481



常時 応力度 583 N/mm^2 $180 \text{ N/mm}^2 \rightarrow \times$
 ・ 地震時 応力度 $= 860 \text{ N/mm}^2$ $270 \text{ N/mm}^2 \rightarrow \times$

常時 安全率 $= 1.985$ 1.2
 ・ 地震時 安全率 $= 0.872 < 1.0 \rightarrow \times$

② 塩浜3丁目 : S.5



ポイント 取付点で評価



常時 応力度 116 N/mm^2 $180 \text{ N/mm}^2 \rightarrow$
 地震時 応力度 $= 175 \text{ N/mm}^2 \leq 270 \text{ N/mm}^2 \rightarrow$

常時 $F = 1.747$ $1.2 \rightarrow$
 ・ 地震時 $F = 0.814$ $1.0 \rightarrow \times$

以上から、

